



## ＝旭町の声＝

「なんと、中はようなっとるなあ」移動図書館車の中に入って利用者、誰れもの第一声です。これまで、町のライトバンに本を積んで町内を巡回していましたが、この図書館車を譲り受けてから、職員、利用者、そして本自身も大喜びしております。

旭町でライトバンを利用したの巡回貸出しをはじめたのは昭和53年からです。今回県立図書館より移動図書館車を譲り受け、それを利用させていただいて、これまでと比べあまりにも楽しんで「ライトバンの頃は大変だったなあ」と思い出しております。苦しかった事例を掲げてみると、

- 図書センターで約 350冊の本を選び出し、それを段ボール箱につめること、

- 屋外の広場で開設していたため雨天の場合の場所の心配、

- 貸本、返本の事務処理等でした。

これまでの場合、町内数ヶ所に車をとめて、本の入った段ボール箱をおろし、また積み込んで出発のくりかえし、そして利用者も思うように増えず、一時は止めてしまおうかとも話し合いながら、実施してきたところ、このような移動図書館車をいただくことができ、これまで続けてきたことが、我々にも、そして、今まで利用していた者、これから利用する人々のためにもよかったなあをつくづく感じております。

これまで町内5ヶ所で開設していた移動図書館を9ヶ所に増やし、前に記したような手間も省け、3人で携わっていたのを2人に減らし、月2回、整備された車内で利用者の本の選択、そして、我々の事務処理も非常にスムーズにできるようになりました。利用者の声を聞いてみると、本の数が多いのでよい。本の種類毎に分かれているので選択しやすい等ですが、一つ残念なことは、ある地区でとても本の好きなお年寄りで車イスを利用してこられる方がおられます。その人は車イスのまま車内に入ることができず、我々としてその事が残念でならないところです。その人のために段ボール箱を用意しておき、それに

本をつめて持ち出し、本人に見てもらうように配慮しております。

教育委員会としては機会ある毎に、又、移動図書館車のマイクを通じて図書センターの利用をと呼びかけているところですが、今のところ1回の貸出しの冊数は約 300冊です。しかし、これまで屋外のため利用者の読書意欲の変化を感じとることはできませんでした。今度利用者が車内に入り、本を選択されるのを見るとき、利用者の読書意欲が盛り上がりつつあることを感じることができます。そのことは、次回の巡回日に何の本を持ってきて欲しい、という希望が多くなってきていることから察することができますし、車内で利用者同士本について意見をのべあっているのを見る時、この時こそ、私たちの最もうれしくなる時です。今回新たに開設した場所で、はじめのうちは、1人くらいの利用者だったのが、最近少しずつではあるが増加していることも事実です。

限られた人員での貸出事務のため日数をかけて巡回することができず、今のところ試みとして、1ヶ所20分で開設しております。この専用車を利用して底辺を広くということが当面の目的であります。これから出てくるであろうと思われる諸々の問題点については、利用者の声を聞いて、いっそう成果が上がるよう配慮したいと思えます。

「もったいないですよ、無料で貸していただいて、しかも好きな本をいつまでも、こんなよいことはありませんよ。なんでみなさん利用されないのでしょうねえ」とは、ある利用者の声ですが、物質的なものでなく、精神的にも読書の必要性は誰れもが認めるところです。

「食糧は体を育て、本は心を育てる、私たちも、移動図書館車の中で見るいい光景、いい言葉を私たちの心の糧として、またこの移動図書館車をその基地として、読書普及のためがんばっていきたいと思えます。

(旭町教育委員会)

## 郷土資料室の窓

### 今年一年の郷土関係出版物について

この1年、ずい分多種多様な図書資料が出版されました。中央の出版社が地方をテーマにした企画を立てるとともに、地方の小出版社も意欲的に出版活動を行っています。その背景には、「地方の時代」「地方文化」などと呼ばれて、ローカルなものに視点をずえるようとする時代風潮があると思われます。

さて、今年一年の郷土関係出版物から、目ばしいものをあげてみましょう。

まず市町村史誌ですが、現在進行中のところはかなりありますが、今年完成したところはわずかでした。

**弥栄村誌** 弥栄村誌編纂委員会編 弥栄村刊

**日原町史・史料** 大庭良美編 日原町教育委員会刊  
日原町史はすでに近世・近代各上・下巻を出版し、今回は近世史料の出版をおこなったものです。

学制百年を機として編纂された『島根県近代教育史』も全7巻の発刊を完了していますが、県下各小・中・高校でも校史の編纂が活発に行なわれ、漸次発行されてきましたが、今年は2、3年以前に比して校史編纂のピークをすぎたような傾向がみえます。

**松徳女学院創立25周年記念誌** 松徳女学院編刊

**横田高等学校60年史** 横田高等学校記念史編集委員会編 横田高等学校刊

**久利小学校史** 久利小学校史編集委員会編 久利小学校PTA刊

**川本西小学校百年史** 川本西小学校百年史編集委員会編 川本西小学校刊

団体や地域史なども出版されています。

**島根県薬30年の歩み** 島根県薬剤師会編刊

**島根県農業試験場百年史** 島根県農業試験場編刊

**島根県蚕糸業と養蚕団体の歴史** 島根県養蚕農業協同組合連合会編刊

**西日登公民館誌** 西日登公民館誌編集委員会編 西日登公民館刊

**朝山の消防** 朝山乙立消防誌編纂委員会編刊

**設立25周年記念誌** 松江市東津田町岡住宅自治会編刊  
シリーズ物として発行が続いている代表的なものは「ふるさと文庫」「松江文庫」「山陰文化シリーズ」「安来文化シリーズ」「津和野ものがたり」「石見郷土

シリーズ」などがありますが、今年は「津和野ものがたり」「石見郷土シリーズ」からの発行がなく、「松江文庫」もなかったのですが、『島根幕末維新史』がそれにかわるものといえるでしょう。久々に「山陰文化シリーズ」からの発行、日原町教育委員会のシリーズも出ています。

**森嶋外百話** 苦木虎雄著 山陰中央新報社刊（ふるさと文庫7）

**山中鹿介紀行** 藤岡大拙著 山陰中央新報社刊（ふるさと文庫8）

**尼子時代史探訪4** 松本興著 安来タイムス社刊（安来文化シリーズ12）

**不昧公と茶の湯一改訂版一** 安部鶴造著 今井書店刊（山陰文化シリーズ47）

**日原の歴史** 大庭良美著 日原町教育委員会刊

**島根幕末維新史** NHK松江放送局編 報光社刊  
その他、自費出版・地方出版・複製版・中央からの出版などは次のとおりです。

**島根の歌人** 本田秀夫著 報光社刊

**松江城歴代藩主の菩提寺** 内田兼四郎編著刊

**南朝悲史楠氏と石州益田** 楠孝雄著刊

**文学津和野** 文学津和野刊行会編刊

**足立美術館** 山陰中央新報社編刊

**島根の美術家一絵画篇一** 島根県立博物館編刊  
**なみのあら磯一後醍醐天皇隠岐行在所論文集一**  
黒木御所顕彰会編刊（昭和44年復刻）

**島根県関係図書解題事典** 伊藤菊之輔編 国書刊行会刊（昭和39年復刻）

**山陰の陶窯** 伊藤菊之輔編 国書刊行会刊（昭和44年復刻）

**島根県人名事典** 伊藤菊之輔編 国書刊行会刊（昭和45年復刻）

**出雲大社** 千家尊祀編著 講談社刊

**日本城郭大系14一鳥取・島根・山口一** 新人物往來社刊

**出雲祭事記** 速水保孝著 講談社刊

**魚屋と山姥一隠岐・島前の昔話** 酒井董美編 桜楓社刊

**津和野** 安野光雅著 岩崎書店刊

### ジェインのもうふ

アーサー・ミラー作・厨川圭子訳

アル・パーカー絵 偕成社 ¥ 880

ピンクの赤ちゃん毛布は、ジェインのお気に入り。ジェインが大きくなるにつれて毛布はぼろぼろになるが、ジェインにとってはどんなりっぱな毛布よりも大切なもの。ところがある日、その毛布の糸くずを小鳥がくわえて飛んでいく。父親から小鳥の巣になることを聞かされてジェインの心も落ちつく。

女の子の毛布にたいする愛着の念と、幼児の世界を脱して、心をひろげていく過程が、きめこまかくソフトに描かれている。絵本から童話への移行期に読ませたい絵本

### ももいろのきりん

中川李枝子作

中川宗弥 絵 福音館書店 ¥800

るるこがもも色の紙で作ったキリカは、世界一強くなる。世界一きれいなキリン。るるこをのせてキリカは

風のように走ってクレヨン山に行く。そして、クレヨンの木をひとりじめして、はげぢよらの動物たちに意地悪しているオレンジぐまをやっつけてしまう。

身近な材料を生かして空想の世界をいきいきと描きだした作品。色あざやかな水彩の挿絵が物語をひきたて、文章のテンポも子どものリズムにぴったり。幼い子どもの夢が楽しく広がる絵物語である。

### おおきくなりすぎたくま

リンド・ワード絵・文 渡辺茂男訳

福音館書店 ¥900

ジョニー少年の家には、クマの毛皮がない。村の家のどこの納屋にもクマの毛皮が干してあるのにと不思議に思う。ある日、子グマを捨ててきた。クマは、どんどん大きくなり、いたずらをして村人を困らせる。何度も捨てて行くが、その度に帰ってくる。ついには射殺まで考えるが、動物園に送られる。無彩色の石版画で、生命の重さを力強く、重厚に描き出している。

## 子どもの本

— 絵本から童話へ —

⑥

## NEWS

### ■日本宝くじ協会から、移動図書館車の寄贈をうける。

従来の移動図書館車「しまね号」は、那賀郡旭町に譲渡し、この度、日本宝くじ協会から新車の寄贈をうけた。この「宝くじ号」は、約 2,000冊の図書を積み、9月以降各地域を巡回している。



### ■昭和55年度全国公共図書館参考事務部門研究集会、盛況裏に終る

10月15・16日の両日、島根県民会館において約150名の参加者を集めて開催された。

「参考業務の新たな展開」を研究テーマに、新しい情報処理システムについての理解を深めるため Japan Marc (日本機械可読目録) および ISBN (国際標準図書番号) の問題、また補助ツールの作成と、その活用の問題等を取りあげて、今後の参考業務の方向をさぐる研究討議がなされた。

### ■親子読書講演会を県下5会場で開催

月日	講師及び演題	会場	参加者数
11月	佐藤英和氏	島根県立図書館	約90名
13日	子どもの読書を考える — 一本が子どもに与える大切なもの —	横田町コミュニティーセンター	120名
14日		斐川町中部小学校	100名
11月	小河内芳子氏	江津市民会館	110名
25日	子どもと本 — 未来の子どもたちのために —	瑞穂町出羽公民館	120名
26日			

### 講演要旨

(詳細は次号に掲載の予定)

#### 佐藤講師

耳から聞く言葉を理解することの大切さ、その言葉には人格があることが、機械から流れる言葉とは違うところである。今や、人格を失った言葉の氾濫する中で、母親が充分にお話をしてやることこそその使命である。

#### 小河内講師

子どもは周囲の大人が心をこめて語りかける言葉で健やかに育つものである。伝承された昔話や絵本が子どもの心に与える影響の大きいことを具体的な事例で紹介・要は親自身が感動をもって読むこと。